

平らに同十何廿何一遊
格子の被戸せたる程も女
下りたる者扱何精ね
手袋帳方御方の如き極減
のりたりたる自余と増し
勢つてさる此の御方と
かきさる御方と再世路
る奇事と云ふこと
島島原い、室物御沈
し、眞し、し、方々、保
仕せし、方々、保
く、つ、方、御、お、
本等の厚い、年、ふ、
行、如、御、方、
下、御、方、の、件、
限、り、の、如、き、御、
さ、る、御、方、の、
と、御、方、の、
か、を、と、保、
し、の、御、方、
御、方、の、
帝の御方と執るべき日
音、御、方、
御、方、

鑑りし 多田景の境遇

帝の勅詔を執りて

音る 吟風集

病と事と 山実心苦

念と則ち病と 藤原

因し 醫戒と守り

米之揚之世と 忘れ

ま功人一般の 病

情を 病の 煩

下 成り 煩

事 日 補 向

响 多 作 了 海 寓 向

特 地 保 持 片 了 事 陽

康 竹 復 了 事 陽

師 了 了 事 陽

福 子 也 也 了 事 陽

何 何 子 也 也 了 事 陽

九 日 十 九

神 竹 留 芳

下

下

下

何伯子也
下

九月十九日
由想彰

大隈伯閣下

二府より白河の風踏蹴蹴
 吸入様を誠におし向違者
 官史より借借了る者
 稀く頼り頼り
 由閣より進出
 新力より注由頼り起
 傍社より甚く重く人氣
 今市より車行馬一に供
 の厨より一更
 甲曰井上伯の罷免は長
 尾伯の為に其進くは是
 谷子ノ舉止、如くする
 乙曰否否井上伯、晴南水
 何ソ此、如く徳操備、案
 着し度、隙了らば是れ又
 閣より為んべし解命、正
 否伯、向う所、非んべし
 何曰、何事、後、任、白

関下為んべし解命ノ正
否伯ノ向う所非んべし
丙曰外務ノ後任大隈伯
在んべし

丁曰至極運任十んべし

朝野ノ多寡人ノ中
此ノ属スルハ又幸伯外

了物無何ラテ大隈伯
卒大死ノ任者ルヘキ

相者トんべし去レバ大隈伯
伊友伯ノ下風ニ多ク

人、非スト信不故依就立
野守中ノ位地止んべし

甲曰然リ然レニ或レ場石
ノ係ノ如ク其ノ完テ以テ

即大任ト為レ退テ他大任
ニ任、之ツハ大隈伯モ敢テ

拒否セザん所ナんべし
伯大死テ伊友伯内務

務カ

丁曰松方伯ノ造リ揚ルハ

如何僕ハ外務ノ事、寧

寺嶋伯ト思フナリ

乙曰十四年ノ夏内閣

...

...

...

...

寺嶋伯下思フナリ

乙巳十四年ノ夏内閣

會方ヲ舉テ一ノ大臣伯

向フ其國情ノ餉勢ヲ

以テ閣員一隊正テ之

及ラシ民今田井上里

西伯ノ道良ニ甚ク難

事者ナレカ如シ故ニ

夏更ニ必ス速ニ

兩日クシ君ノ從者

馬田伯ノ現任或ニ

アニ如ク歎ナルヤ

方ノ不稱ノ難多ク

之病笑説シテ

うし中伯と稱ハ

要スル也四都ノ

志皆伊反内閣

更と地む如ク

事ナリ侍社大

慮悉ク侍家

社也